

セキュリティオペレーションの認知向上に向けて

株式会社ラック

日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J) 代表

武智 洋



日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J) の代表の武智です。

ISOG-Jは、セキュリティオペレーションサービスを提供する事業者が集まり、2008年6月に JNSA配下に設立されました。約3年の間、ユーザに向けた「マネージドセキュリティサービス選定ガイドライン」等の発行、普及・啓発・認知向上のために様々なセミナー開催や事業者のサービス向上のための勉強会などの活動を行って参りました。

さて、我々セキュリティオペレーション事業者は、セキュリティ運用のサービスを提供しておりますが、皆様にとって運用とはどのようなイメージでしょうか。

様々な方に運用の重要性を聞くと、多くの方が「運用は大事」と答えます。とはいっても、実際は、普段意識される機会も少なく、地味な存在という印象もあるのではないでしょうか。

しかしながら、実は、ITシステムのライフサイクルで一番長く必要とされる部分であり、関心を持って考えて頂くことで、効率的・効果的なITシステムの利活用が進む鍵となりうる分野です。また、ユーザが組織固有のコアコンピタンスに関わる部分に自組織のリソースを集中し、それ以外のITシステム機能はアウトソースする傾向にある中、事業者にとっては、いかに良い運用サービスを提供できるかが大きな課題となっています。

そのためには、ビジネス環境の変化や新しい技術への対応が必須です。セキュリティのトピックスは多くありますが、その中で今年は特に以下が重要と考えています。

1) IPv6対応

IPv4アドレス枯渇が目前に迫っている状況で、IPv6対応を避けて通れません。運用の準備が整っているところは少ないのではないでしょうか。各事業者それぞれがビジネスとして取り組む部分もありますが、業界として出来るだけ早く対応できるようにしていく必要があると考えています。

2) スマートフォン

スマートフォンが非常に伸びている中で、企業ITシステムがどのように変わっていくか、その運用が今後どのようになるかの見極めが重要と考えます。

3) 新たな脅威と情報共有

今まではもちろん、今後も、新たに現れてくる脅威に対し、セキュリティオペレーション事業者としてどのようなことが出来るのかを考えることが必要です。特に、標的型攻撃など複雑・巧妙化し、実態を捉えることが難しい脅威に対して、事業者間で情報共有などの面などで果たす役割があるのではないかと考えています。

我々は、次の3年間に向け、セキュリティオペレーションサービスのレベル向上とユーザの認知をさらに広げることを目標に、セキュリティオペレーション事業者の業界団体として、自覚と責任を持って様々に変化していく社会のニーズに応える活動を進めていきたいと思っております。

司馬遼太郎の「坂の上の雲」の中で正岡子規が「つまりは、運用じゃ。」と言う場面があります。(文脈上拡大解釈かもしれません、私としては、その通り運用が大事だと大変気に入っている場面です。)

出来るだけ多くの方にそのように言っていただけるよう、メンバー一同、頑張って参ります。今後ともご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。